

軽減税率 8%、10%消費税混在の請求書対応について

株式会社ティーピクス研究所

2019年10月より改正消費税法が施行されますが、この中で食料品に関しては、経過措置として軽減税率制度が導入されます。

食品製造業でTPICSのExcel帳票を用いて請求書発行をしていて、さらに請求データに軽減税率8%と10%消費税が混在する場合は、請求書のExcel帳票にて変更が必要となります。混在が無ければ8%の帳票と10%の帳票デザインを作成し、得意先の請求書デザインを分けていただくことで対応出来ます。

本資料では、8%と10%が混在している請求書が必須の場合の対応方法について説明致します。

1. 軽減税率対象アイテムに記号を付加

軽減税率の対象となるアイテムの「名称」に任意の記号を付けます。

以下の例では製品AとCを軽減税率対象アイテムとして名称末尾に“※”を付加しています。

アイテムコード	名称	主製造担当	主製造担当名	単位	親子レベル	複数ロケーション	製番管理区分	製番引当区分	親履歴管理区分	子履歴管理区分	ロット名必須	プロジェクト専用	計算グループ
A	製品A※	S03	製造3課	個	0	単一	fMRP	必要数だけ引当	しない	しない	不要	汎用	ALL
B	製品B	S03	製造3課	個	0	単一	fMRP	必要数だけ引当	しない	しない	不要	汎用	ALL
C	製品C※	S03	製造3課	個	0	単一	fMRP	必要数だけ引当	しない	しない	不要	汎用	ALL

2. 売価マスターと得意先マスターの整備

① 売価マスターの設定

軽減税率の対象になる売価マスターの「消費税率」に“8”を指定します。

このように指定することで、その売価が適用された際は常に8%の税率で消費税額が計算されます。

アイテムコード	名称	分類	単位	客先コード	得意先	得意先名	適用開始日	適用終了日	消費税率	適用数量	契約売価	実売売価	通貨	課税区分	出荷総数	金額(総出荷)	最終売日
A	製品A※	A1	個	0A	T00	東京商事株式会社	0000/00/01	9999/99/99	8	0	1,000.0	1,000.0		課税	1	1,000.19	
B	製品B	B1	個	0B	T00	東京商事株式会社	0000/00/01	9999/99/99	0	0	2,000.0	2,000.0		課税	1	2,000.19	
C	製品C※	C1	個	0C	T00	東京商事株式会社	0000/00/01	9999/99/99	8	0	3,000.0	3,000.0		課税	1	3,000.19	

②得意先マスターの設定

軽減税率対象のアイテムを出荷する得意先の「消費税額の計算方法(請求)」を「個別に計算する」に設定します。

このように設定することで、請求集計時に同じ得意先でも品目毎に個別計算された消費税を合計するようになるため、軽減税率対象のアイテムとそれ以外を分けて集計出来ます。

得意先	名称	伝票デザイン	現品番号デザイン	請求書デザイン	カレンダール番号	輸送リード日数	内示前除先行日数	支払サイクル(月)	支払日付	過入金額	端数(金額の扱い)	端数(消費税の扱い)	消費税額の計算方法(請求)	分類	得意先
T00	東京商事株式会社	納品1	現品2	請求1	1	0	0	0	31	0	四捨五入	四捨五入	個別に計算する		購

3.請求書のデザインを編集

以下は「請求 1」のデザインを例に軽減税率対象品目の合計金額及び消費税額と、標準税率の品目の合計金額及び消費税額を表示させる方法です。

①請求書のデザインを変更する

請求書の任意の箇所に各種金額表示用のテキストボックスを設置し、後述する②で計算した値を参照表示させます。欄外に記号「※」が軽減税率対象品目を表すことを記述します。

請求書													発行日 2019/10/15	
東京商事株式会社 購買課 TEL FAX													株式会社ティピクス 研究所 〒112-0011 東京都文京区千石4-8-6 TEL 03-5395-0055 FAX 03-5395-0066	
請求月		お買上件数		税抜お買上額		消費税額		税込お買上額		入金予定日				
201910		3		6,000		520		6,520		201910311				
税抜お買上額(8%対象)				消費税額		①X66セルを参照 ②X67セルを参照 ③X68セルを参照 ④X69セルを参照								
① 4000				② 320										
税抜お買上額(10%対象)				消費税額										
③ 2000				④ 200										
毎度ありがとうございます。上記の通りご請求申し上げます。													※は軽減税率対象品目	
請求明細														
アイテムコード	名称	受注番号	枝番	出荷日	納入場所	納入数量	単位	単価	値引	税抜お買上額	消費税額	税込お買上額		
A	製品A※	RR0001		0201910021	東京商事株式会社	1	個	1,000.00	0	1,000	80	1,080		
B	製品B	RR0002		0201910031	東京商事株式会社	1	個	2,000.00	0	2,000	200	2,200		
C	製品C※	RR0003		0201910041	東京商事株式会社	1	個	3,000.00	0	3,000	240	3,240		

②軽減税率対象品の「税抜お買上額(8%対象)」と「消費税額」を計算する

デザイン外の適当なセルで、SUMIF 関数を用いて名称に「※」が含まれているデータの「税抜お買上額(8%対象)」、「消費税額(8%対象)」を合計します。

請求書													発行日 2019/10/15		ヘルプ		メニューへ		設定、計算式	
													税抜お買上額(8%対象)		4000					
													消費税額(8%対象)		320					
													税抜お買上額(10%対象)		2000					
													消費税額(10%対象)		200					

■ X66 の式
=SUMIF(\$C\$101:\$C\$300,"*※",\$L\$101:\$L\$300)

関数の引数

SUMIF

範囲	$\$C\$101:\$C\300	=	["製品A"; "製品B"; "製品C"]
検索条件	"*"*	=	"*"*
合計範囲	$\$L\$101:\$L\300	=	1,000; 2,000; 3,000; ...

指定された検索条件に一致するセルの値を合計します。
範囲には評価の対象となるセル範囲を指定します。

数式の結果 = 4000

[この関数のヘルプ\(H\)](#)

範囲 : 「名称」列の範囲を指定
 検索条件 : "*"*と入力
 合計範囲 : 「税抜お買上額」の範囲を指定

※同様に消費税額も SUMIF 関数で計算してください。

なお、「請求 1」のデザインの請求明細の「税抜お買上額」、「消費税額」は文字で扱われているため、そのままでは SUMIF 関数で計算ができません。

請求明細												
アイテムコード	名称	受注番号	枝番	出荷日	納入場所	納入数量	単位	単価	値引	税抜お買上額	消費税額	税込お買上額
A	製品A※	RR0001		0201910021	東京商事株式会社	1	個	1,000.00	0	1,000	80	1,080
B	製品B	RR0002		0201910031	東京商事株式会社	1	個	2,000.00	0	2,000	200	2,200
C	製品C※	RR0003		0201910041	東京商事株式会社	1	個	3,000.00	0	3,000	240	3,240

以下の計算式を参考にして数字に変換してください。

■ 「税抜お買上額」

$=IF(ISERROR(HLOOKUP(AI\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE))*1,"",IF(=""=HLOOKUP(AI\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE),"",HLOOKUP(AI\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE)*1))$

■ 「消費税額」

$=IF(ISERROR(HLOOKUP(AJ\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE)), "", IF(=""=HLOOKUP(AJ\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE),"",HLOOKUP(AJ\$60,D_RActData,ROW()-ROW(P_SC_Grid)+2,FALSE)*1))$

③ 標準税率の品目の「税込お買上額（10%対象）」と「消費税額」を計算する

標準税率の品目については、全体の「税抜お買上金額」、「消費税額」から、上記②で求めた「税込お買上額（8%対象）」、「消費税額（8%対象）」を減算すれば求めることができます。

- ・「税込お買上額（10%対象）」 = $\$X\$26 - \$X\66
- ・「消費税額（10%対象）」 = $\$Y\$26 - \$X\67

④ 出力内容の確認

実際に請求書を発行して正しい金額が表示されているかを確認します。